

# 現代英語における受動態

## —— 一つの統計的分析 ——

外 山 敏 雄

ある表現が自然な表現であるか否か、という判断の根拠は、結局は、actual usage に求めねばならないであろう。かなりの規模の調査から得られた客観的データの裏付がどうしても必要となるのである。native speaker でなければ、断定できない面も多く、われわれにはその必要性がそれだけ大きい。海外の調査データですべて解決されるとは限らない。native speaker の立つ基盤とわれわれのそれとが異なり、したがって関心も岐れるからである。

態の問題については、わが国では、今なお誤解や混乱も見られるように思われる。ことに、教育面における混乱はその及ぶところ重大であって、誤解があるとすれば早急に正されねばならないであろう。

本稿の目的は、上のような観点から、さし当ってはっきりさせなければならないと思われる、いくつかの点について具体的なデータを求めることにある。

\*

受動態の問題は、実際面で非常に切実な問題である割に、わが国では意外にとりあげられることが少ない。わが国にこれまで見られる諸研究は、直接われわれの当面の問題の解決にあまり結びつかなかった。

海外のものでは、J. Svartvik の大規模な調査分析

*On Voice in the English Verb*, The Hague (Mouton), 1966.

がある。同書は、電子計算機の助けをかりて、現代英語の膨大な資料を精力的に分析し、広範な問題にわたって多くのデータを提供している。このような詳細な実証的研究が、わが国では正面から取上げられることがほとんどなく、その成果が実際に生かされないのは、いかにも残念なことであると思われる。

ただ、われわれの観点からすれば、その受動態の概念規定、したがってその全体の構想には問題もあると思われる。(これは重要なことであるがその点については後述する。) また、そのデータがすべてわれわれの当面の要求とかみ合うわけではない。

\*

それでは、以下、今回の調査について述べてゆくことにする。

はじめに、調査のねらいを明らかにしておきたいと思う。

まず、前提として、受動態をどうとらえるか、その概念規定をはっきりさせる必要があるであろう。

従来、伝統的に、受動性をほとんどもたない、したがって本質的に受動態と言えないものまでもその category の中に含めて論じられることが多かったのであるが、形態と機能とを峻別しなければ、本質に迫ることはできないと思われる。

形態上は passive と同じであっても、その V<sub>ed</sub> が動詞性を失い形容詞化しているものまでその範疇に含めれば、いろいろ矛盾も生ずるであろう。そのような異質なものが混入してい

ば passive sentence の使用頻度何パーセント、というデータも、厳密にどれだけの意味があるであろうか。また、agent の表現されたものが passive 全体の何パーセントを占める、という統計も、もともと agent のつく可能性皆無のものが混入しては、その意味が怪しくなってきたはしないか。

Svartvik は、動詞として 'be+p.p.' という結合をもつ場合 ('be' の代りにそれと commutable な助動詞の来る場合も含める) を passive とする、と定義して調査をすすめている<sup>1)</sup>が、ここでは、上のような考え方に立って、本質的に passive と言えないものは受動態の範疇に加えないことにする。前提として、まず、そのことをはっきりさせておきたい。

さて、調査のねらい、であるが、1つは動作主表現である。agentful passive は passive 全体の何パーセントぐらいの割合を占めるか、そして agentful になるのはどのような場合か、また、agent を導く前置詞の種類はどうか。passive voice をとる動詞の分布のちらばり方はどうか。進行形をとるものはどの程度見られるか、などをとりあげてみたい。

中でも、agentful passive は受動態全体のどのぐらいの割合を占めるか、ということは1つのポイントである。それは受動態の本質にせまるための手がかりになると思われるからである。

その点については、わが国では、今なお O. Jespersen のあげるデータ<sup>2)</sup>が引用され続けているが、その数字はすでに半世紀を経たものである。また、上に述べたような矛盾からくる曖昧さを免れ得ないであろう<sup>3)</sup>。結局、拠り所となるデータは得られないのである。

次に、調査の資料であるが、今回は能率の上から、現代英語のセンテンスを生のまま集めて記録した次の書を資料として調査を行なうことにする。

G. Scheurwechs, *Present-day English Syntax*, London (Longmans), 1969<sup>4)</sup>

同書は、広範囲にわたる多数の出版物によって、現代英語の書きことばのありのままの姿を示し解説を加えたものであるが、用例がその大きな部分を占めている。用例を生のまま示すことが主で、説明はむしろ従、の観がある。いわば、実例によって語らせたユニークな書である。(同書もわが国ではその価値が正当に評価されていると思われないものの1つである)

同書の全ページから受動態の文をすべて選び出して分析してゆきたい。

なお、調査の対象は動詞に限り準動詞は対象からはずすことにする。

そこで、いかなるものを「動詞」とするか、その点をはっきりさせておかなければならないであろう。

結論的に云って、'auxiliary verb'+be+p.p. はもちろんのこと、助動詞的な機能語の実質をそなえたものが、'be+p.p.' と密接に結合した語群も、全体として「動詞」として扱うのが自然であろう。要は一体性のいかんであると思われる。そのような助動詞的な機能語の実質をそなえたものとして取扱うことのできるのは、次のようなものであろう。

have to, appear to, be (un)likely to, be going to, have got to, be bound to, seem to, need to, require to, be able to, come to, tend to, be to, be about to, be due to, be sure to, be certain to, happen to<sup>4)</sup>

さて、調査において細心の注意を要するのは、前述のような、実質的に受動性をもたない(或いは、それが稀薄な)ものを取除く作業である。

E. A. Nida は、次のような語は、「通例完全に形容詞化したものとして起る」としている。<sup>5)</sup>

agitated, altered, amazed, ashamed, astonished, bored, celebrated\*, civilized, complicated, confused\*, contented, crowded, decided\*, delighted, depressed, determined, devoted\*, disappointed, discontented, disgusted, distinguished\*, embarrassed, enlightened, excited, exhausted, experienced, faded, flattered, flushed, frightened, grieved, guarded, harassed, hurried, interested, mystified, neglected, noted, offended, pleased, puzzled, qualified, reserved, terrified, tired, unclassified, uncooked, uncovered, undamaged, upset, worried (\*印筆者)

しかし、\*印を付した語は、はたして現実にここにあげられている他の語と同様に、動詞性をもつ可能性がゼロに近いと言い切ってよいであろうか。<sup>6)</sup>

用例は、やはり1つ1つ注意深く検討するほかはない。

受動性の有無は、結局、transformational potential があるか否か、直接的な動作主が考えられるか否か、によって判断することになるであろう。

なお、もう1つ問題が残されていると思われる。それは、いわゆる statal passive の取扱いである。Scheurwechs は *passive forms, passive voice* を

‘The forms of the verb conjugated with *to be* and the past participle of the verb when it does not denote a state resulting from an action’

として、いわゆる statal passive を passive の範疇に含めない。<sup>7)</sup> 多くの statal passive は、たしかに transformational potential をもたず、本質的に受動態とは区別されるべきものであって、この見方は基本的には妥当なものと言える。<sup>8)</sup>

一般にいわゆる statal passive は、その性格上 expressed agent をもつことは、いわゆる actional passive の場合に比べて、当然より少ないはずである。<sup>9)</sup>

ただ、決して expressed agent をもつことがないわけではない。用例の中にたとえば次のものがある。[( ) 内の符号は原資料の略号、ページ数は Scheurwechs 前掲書の所在箇所]

The island is linked to the mainland by sands and flats. (I.) p. 59

これなどは、ある意味で transformational potential をもつ<sup>10)</sup> わけで、次の例などとはかなり性格を異にするものと見なければならないであろう。

The island is connected with the mainland. (I.) p. 95

前者のようなものは、むしろ、受動態の範疇に加えるべきものであると考えられる。

statal passive がすべて一様な性格であるとは言えないであろう。

以上2つが、調査に当たって困難な点であったが、可能なかぎり得られるデータの純度を高めることができるよう用例の検討に慎重を期した。<sup>11)</sup>

\*

こうしてふるいにかけて残ったものを1例ずつカードに転記し、2個所以上に重複してあげられているもの(ごく少数であるが)を整理した。

結局、採取できたのは、計1,031例である。動詞別に、agentless, agentful にわけて lexical order に整理したものが以下の統計である。表の数字は、はじめの数字が agentless の度数を、後の数字が agentful の度数をそれぞれ示している。[( ) 内の数字は進行形のものの内数を示す。なお、同じ動詞が異なる文型で用いられているものや、phrasal verb 等も別個に扱

わず 1 つの動詞にまとめて表示してある。]

abandoned	1, 0	awakened	2, 0	contemplated	1, 0
abolished	2, 0	awarded	1, 0	converted	1, 0
absolved	1, 0	based	1, 0	conveyed	0, 1
accepted	2, 0	beaten	2, 0	convicted	1, 0
acclaimed	2, 0	believed	5, 0	cooked	1, 0
accompanied	0, 1	betrayed	1, 0	corroborated	1, 0
accomplished	1, 0	bitten	0, 1	covered	0, 1
accorded	2, 0	blamed	1, 0	created	0, 1
accounted	1, 1	blasted	1, 1	criticized	2, 0
accused	1, 0	borrowed	1, 1	crossed	2, 0
achieved	2(1), 0	bothered	1, 0	cut	2, 0
acquired	1, 0	bought	2, 1	dashed	1, 0
acted	1, 0	bound	0, 1	dealt	1, 1
added	1, 0	bounded	1, 1	debated	1, 0
addressed	1, 0	bred	1, 0	decided	5, 0
adjourned	1, 0	broken	3(1), 1	decked	1, 0
administered	1, 0	brought	6, 0	decreed	1, 0
admitted	4, 0	built	5(1), 1	deemed	3, 0
adopted	1, 0	buried	4, 0	defeated	1, 0
affected	1, 0	called	17, 0	defined	3, 0
afforded	1, 0	canonized	1, 0	delayed	2, 0
agreed	3, 0	cared	2, 0	delivered	1, 0
alleged	1, 0	carried	7(1), 2	demobilized	1, 0
alloted	2, 0	cast	1, 0	demolished	1, 0
allowed	10, 0	caught	0, 1	demonstrated	0, 1
altered	3, 0	caused	1, 1	denied	1, 0
amended	1, 0	caded	0, 1	departed	1, 0
analysed	1, 0	celebrated	1, 0	depicted	1, 0
announced	1, 0	changed	2, 0	deprived	2, 0
answered	1, 0	charged	4, 0	derided	1, 0
anticipated	1, 0	checked	1, 0	derived	1, 0
applied	3, 0	cherished	1, 0	described	2, 0
appointed	3, 1	chosen	3, 1	deserted	0, 1
argued	2, 0	christened	0, 1	destroyed	2, 0
arranged	1, 0	cited	1, 0	detained	1, 0
arrested	1, 0	clouded	0, 1	devastated	1, 0
articled	1, 0	collected	1, 0	developed	2, 0
ascribed	2, 0	coloured	0, 1	devoted	1, 0
asked	6, 1	compelled	1, 0	dictated	0, 1
assailed	0, 1	completed	2, 0	directed	0, 1
assured	1, 0	concealed	1, 0	discouraged	1, 0
attached	1, 0	confessed	1, 0	discovered	4, 0
attacked	1, 0	confused	1, 0	discriminated	1(1), 0
attempted	1, 0	congratulated	1, 0	discussed	4, 0
attracted	1, 1	consecrated	1, 0	disgusted	0, 1
attributed	1, 0	considered	8, 0	dismembered	1, 0
authorized	0, 1	constituted	2, 0	displayed	1, 0
averted	1, 0	consulted	1, 0	disposed	1, 0

disregarded	1, 0	forgiven	1, 0	known	7, 0
distinguished	1, 0	forgotten	6, 0	laid	2, 0
disturbed	1, 0	forstalled	1, 0	launched	1, 0
done	11(1), 0	fought	1, 0	learnt	1, 0
doubted	1, 0	found	30, 2	left	20, 0
drafted	1, 0	framed	1, 0	lent	2, 1
dragged	0, 1	gained	1, 0	let	1, 0
drawn	2, 1	gathered	1, 0	licensed	1, 0
dressed	1, 0	given	15(1), 0	lighted	0, 1
drilled	1, 0	gone	1, 0	liked	1, 0
driven	5, 0	got	1, 0	lined	1, 0
dropped	0, 1	granted	2, 1	linked	0, 1
dug	2, 0	grounded	1, 0	listened	1, 0
eaten	1, 0	grouped	1, 0	looked	5, 0
educated	2, 0	guaranteed	1, 0	lost	1, 0
effected	1, 0	guided	0, 1	made	27, 3
elected	4, 1	handed	1, 0	manned	0, 1
elicited	1, 0	heard	8, 0	marked	1, 1
employed	1, 0	held	4, 1	marooned	1, 0
enabled	2, 0	hidden	1, 0	marred	0, 1
encountered	3, 0	hit	2, 0	mass-produced	1, 0
encouraged	3, 0	hoped	7, 1	meant	1, 1
engendered	1, 0	ignored	2, 0	mentioned	1, 0
enjoyed	0, 1	imported	2, 0	met	1, 0
enlarged	1, 0	impoverished	0, 1	minimized	1, 0
erected	1, 0	imprisoned	1, 0	mirrored	1, 0
established	2, 0	incarcerated	1, 0	moved	2, 1
estimated	1, 0	included	1, 0	multiplied	1, 0
evacuated	1, 0	indicated	0, 1	nagged	0, 1
exaggerated	1, 0	induced	2, 0	named	1, 0
examined	2, 0	influenced	0, 3	needed	4, 0
excluded	1, 0	informed	2, 0	numbered	1, 0
excused	1, 0	inhabited	0, 1	objected	2, 0
executed	2, 0	inoculated	1, 0	obliged	1, 0
exercised	2, 1	inspired	0, 1	observed	2, 1
exerted	0, 1	installed	1, 0	obstructed	1, 0
exhibited	1, 0	instructed	1, 0	obtained	2, 0
exiled	1, 0	intended	7, 0	offered	6, 0
expected	6, 0	interfered	1, 0	omitted	1, 0
explained	2, 0	interned	1, 0	opposed	0, 1
expressed	0, 1	introduced	1, 0	ordained	1, 0
extinguished	1, 0	invited	5, 0	ordered	4, 2
felt	1, 0	invoked	0, 1	overlooked	1, 0
filled	2, 0	involved	1, 0	overseen	0, 1
fired	1, 0	issued	2, 0	owed	0, 1
fitted	2, 0	joined	1, 0	owned	0, 2
fixed	1, 0	jostled	1, 0	packaged	1, 0
followed	0, 2	kept	3, 2	paid	4, 1
forced	3, 1	kicked	1, 0	passed	1, 0
forfeited	1, 0	killed	3, 3	patched	1, 0

performed	1, 0	refreshed	1, 0	shocked	0, 2
permitted	4, 0	refused	2, 0	shot	3, 0
persuaded	2, 0	regarded	8, 0	shown	5(1), 0
pervverted	0, 1	relayed	1, 0	signed	1, 0
piled	1, 0	released	1, 0	silenced	1, 0
placed	2, 0	relied	3, 0	skipped	1, 0
planned	0, 1	relieved	1, 0	sold	2, 0
played	2, 0	remedied	0, 1(1)	solved	2, 0
ploughed	1, 0	remembered	2, 0	sorted	1, 0
portrayed	1, 0	reminded	5, 0	spared	3, 0
poured	1, 0	removed	5, 0	speeded	1, 0
prepared	1, 0	rendered	1, 1	spent	2, 0
presented	2, 0	repeated	1, 0	spoilt	1, 0
preserved	2, 0	replaced	0, 2	spoken	1, 0
pressed	1, 0	reported	4, 1	stampeded	1, 0
presumed	2, 0	represented	2, 1	started	1, 0
proceeded	0, 1	reprinted	1, 0	stated	1, 0
prohibited	2, 0	reproduced	2, 0	stimulated	1, 0
promised	1, 0	reproved	1, 0	stopped	1, 0
promoted	3, 0	reputed	1, 0	strengthened	1, 1
promulgated	1, 0	required	6, 0	striven	1, 0
proposed	4, 1	resented	0, 1	struck	2, 3
protected	3, 1	respected	1, 0	subscribed	1, 0
proved	0, 1	responded	0, 1	suggested	1, 0
provided	1, 1	restored	1, 0	summoned	0, 1
published	1, 0	retained	1, 0	sunk	1, 0
pulled	1, 0	retired	1, 0	superseded	1, 0
punished	2, 0	returned	1, 0	supplanted	0, 2
purified	1, 0	revealed	1, 0	supported	1, 1
pursued	1, 0	revived	0, 1	supposed	5, 0
pushed	1, 0	rewarded	1, 0	suspected	2, 0
put	5, 0	rhapsodized	1, 0	swamped	0, 1
quarreled	1, 0	rigged	1, 0	sworn	1, 0
questioned	2, 0	robbed	1, 0	swung	2, 0
quoted	1, 0	rolled	0, 1	tackled	1, 0
raised	1, 0	roused	1, 0	taken	18, 4
ransacked	0, 1	run	1, 1	tanned	0, 1
reached	3, 0	said	13, 0	taught	2, 1
read	2, 0	scrutinized	0, 1	telegraphed	1, 0
realized	2, 0	seated	1, 0	tempered	1, 0
rebuilt	3, 0	seen	12, 1	termed	1, 0
received	0, 1	segregated	1, 0	tested	0, 1
reckoned	3, 0	selected	1, 0	thought	13, 0
recognized	5, 1	sent	7, 0	threatened	1, 0
recommended	1, 0	sentenced	1, 0	thrown	4, 0
recorded	2, 0	separated	0, 1	told	4, 1
recruited	1, 0	served	3(1), 0	tolerated	1, 0
redesigned	1, 0	set	6, 0	trained	2(1), 0
reduced	1, 0	settled	1, 1	transferred	1, 0
referred	2, 0	shed	3, 1	transformed	2, 0

translated	2, 0	used	8, 1	watched	2(1), 0
trapped	0, 1	uttered	1, 0	wished	1, 0
treated	1, 0	vetted	1, 0	withdrawn	3, 0
tried	1, 1	victualled	1, 0	worked	1, 0
trusted	1, 0	vindicated	0, 1	worn	1, 2
turned	3, 0	voted	0, 1	worshipped	1, 0
under-estimated	2, 0	walked	2, 0	wounded	1, 0
understood	3, 0	wanted	2, 0	written	2, 0

動詞の種類は、非常に幅広いちらばりを見せ 468 種もの多きにのぼる。(一部の動詞にかなりの集中が見られるが)

さて、この度数分布を集計すると、

Agentless .....	895 ( 86.8 %)
Agentful .....	136 ( 13.2 %)
Total .....	1,031 (100.0 %)

となる(そのうち進行形の場合は、agentless 11, agentful 1, 合わせて 12 例である)。agentful の比率が予想外に小さいことに驚くのである。現実(は、むろん、全般的に見れば、であるが) agentless が「一般」で、agentful はむしろ「特殊」、の観がある。

次に、個別的看着て、agentless, agentful にそれぞれ片寄りの目立つものを見ることにする。度数が 10 以上で、すべてが agentless であるものについて、文型別の内訳を示すと、

allowed	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +N \\ +to\ V \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 3 \\ 2 \\ 5 \end{array} \right\}$	10	called	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +N \\ +upon\ to\ V \\ +out \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 7 \\ 3 \\ 1 \end{array} \right\}$	17
done	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +away\ with \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 10 \\ 1 \end{array} \right\}$	11	given	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +N \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 5 \\ 10 \end{array} \right\}$	15
left	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +V\ ing \\ +to\ V \\ +V\ ed \\ +Adj. \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 14 \\ 1 \\ 2 \\ 2 \\ 1 \end{array} \right\}$	20	said	$\left\{ \begin{array}{l} +\phi \\ +to\ V \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 4 \\ 9 \end{array} \right\}$	13
thought	$\left\{ \begin{array}{l} +to\ V \\ +Adj. \\ +that-cl. \\ +of \end{array} \right\}$	$\left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 9 \\ 2 \\ 1 \end{array} \right\}$	13				

となる。また、逆に agentful だけの動詞を拾ってみると、

followed	0, 2	influenced	0, 3	owned	0, 2
replaced	0, 2	shocked	0, 2	supplanted	0, 2

などがある。これらのものは、その「意味」が agent の表現を要求するもので、全体から見て特殊性の濃い動詞とみることができよう。

\*

さて、次に、再び全体的視野にもどって、より普通の表現である active form をとらず、英語表現全体から見てかなり特殊なものと言える、agentful passive が選択されるのは、で

は、どのような場合であるか、その点を統計の上からうかがってみることにする。

Svartvik は、subject の語数と agent の語数それぞれの平均を出して、agent の方が長くなる傾向がある、とし、それによって 'balance' ということを説く<sup>12)</sup> が、ここでは、より有効な統計方法を考えてみたい。

subject と agent のバランスという問題になれば、双方の語数をそれぞれ別々に算術平均するよりも、各用例について、subject と agent の語数の相関関係を調べる方が有効であることは明らかである。136 の各用例について、その相関関係を表にまとめると次のようになる。<sup>13)</sup>

Su bj Ag																							Total
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1	9	8	1	1	2	1		1				1											24
2	12	19	5	2	3			1		2		1											45
3	4	6	1	1	1	1	1																15
4	1	4	1	1				1															8
5	2	6		1																			9
6	2	6	4	1				1															14
7	2																						2
8	1	3																					4
9	1	3																					4
10			1																				1
11	1	1				1																	3
12	1																						1
13		1	1																				2
14	1																						1
15	1																						1
16																							
17																							
18																							
19																							
20				1																			1
21																							
22		1																					1
Total	38	58	14	8	6	3	3	2		2		2											136

点線の左下の範囲（ここでは、 $Ag > Subj$  である）には 71 例が分布し、点線の右上の範囲（ここでは  $Subj > Ag$ ）の 2 倍となっている。このことによって、一般に agent の方が subject よりも語数が多くなる（重くなる）傾向があることが確かめられる。

ただ、ちょうど点線が通過しているところに、計 30 例が分布していることを見落すことはできないであろう。この線上では、語数の上で  $Ag = Subj$  であるが、そこではバランスの関係は、はたしてどうなっているであろうか。そこで、度数がその大部分を占める  $Ag = Subj = 2$  および  $Ag = Subj = 1$  のそれぞれについて、さらに立ち入って調べてみたい。

それぞれについて音節数を調べて相関表を作ると次のようになる。



\*Ag=Subj=2 words (19 examples) の音節数

Ag \ S	1	2	3	4	5	6	7	8
1								
2		(2)	1	1				
3			(2)	2				
4		4	2	(1)				
5		1			(1)			
6		1				(1)		
7								
8								

Total=4

Total=8

\*Ag=Subj=1 word (9 examples) の音節数

Ag \ S	1	2	3	4	5	6	7	8
1	(3)	1						
2		(1)	1					
3	1							
4	2							
5								
6								
7								
8								

Total=2

Total=3

この表によって、たとえ同じ語数であっても、実質的にやはり  $Ag > Subj$  となる傾向があることが確められる。

以上の考察によって、一般に agentの方が subjectよりも長く（重く）なってバランスが保たれる傾向がはっきり認められるであろう。

\*

ところで、では、これらの数字の背後にどのような事実が見られるであろうか。次に、相関表の点線の両側の各範囲について用例を具体的に検討してみることにする。

はじめに、点線の左下の範囲について見てゆく。そこで、agentの特に長いものは、それがどのような構造になっているであろうか。

特に目立つのは、agentの中心となる語を関係詞節が修飾する構造である。たとえば次のような場合である。（イタリックは筆者）

He was not tanned by *the sunshine that any travel agent will say Sicily is remarkable for in the spring.* (The Times) p. 287

このような場合が9例見られる。

ついで目立つのは、次のような、同格構造や多くの語句並列の場合である。

The Bank's development was influenced by *foreigners, men such as Houblons.* (B.) p. 132

Her horizon is bounded by *games of patience, hot-water bottles, taking the dog for a walk, fetching cushions, and all the similar tasks of a middle-aged companion.* (R.) p. 200

また、次の例のように、agent自体はそれほど大きくなくても、agentに追叙節の後続する構造も見られる。

Bowen was supported by *his headmaster, who ensured that the Modern side should not be a soft option.* (C.) p. 271

以上、点線の左下の範囲から4つの場合をあげてみたが、それらの多くは（ことに最初の例などは）構造上どうしても passive を選択しなければならない場合であることがわかる。

次に、点線の右上の範囲に目を移そう。その中に次の例がある。

We shall see to it that a fairer share of the burden will be carried by *them*.  
(*The Times*) p. 118

これは、バランスのマイナス要因がかなり大きい場合であるが、バランスを犠牲にしてまでも passive を選択して *them* を prominent position に置かねばならない特別な理由のある場合であろう。文尾に人称代名詞の agent がくことは確かに少なく、104 例中 1 例だけである。全 1,031 例のうちただ 1 つであって、いわば、特殊の特殊と言えよう。

なお、sentence の途中に人称代名詞の agent がく場合がこれも 1 例だけ見られる。

The gown is worn by *him* alone among the legal profession proper. (Der.) p. 51

この場合は、同じ人称代名詞でも、文の途中であるうえ ‘alone’ と緊密に結合していることもあって、それほど awkward な感じは与えないであろう。

Svartvik は、sentence 内での agent の位置を区別せずに、31 例中人称代名詞を agent とするものゼロ、という数字をあげ、代名詞は agent として極めて稀である、とするだけである<sup>14)</sup>が、少し機械的にすぎないであろうか。

ちなみに、agentful の 136 例について、agent の位置と語数の関係を調べてみると次のようになる。

語 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	Total
文 中	10	13	4		1	2				1													31
文 尾	14	32	11	8	8	12	2	4	4		3	1	2	1	1					1		1	105

これを見ると、文尾が何と言っても多いが、3 語程度までの場合には、途中に置かれることもかなり多いことがわかる。

もう 1 つ例を見よう。

We would remind you that the gambling habit is opposed by *many*. (*The Times*) p. 249

これは、*many* に prominence を置く場合であろう。

以上、相関表の点線の両側の範囲についてそれぞれ注意すべき事実をあげてみた。

現実には、様々な要因が複雑に作用して passive の選択がなされるが、上の考察によって、subject と agent のバランス、ということが agentful passive を生む 1 つのかなり有力な要因であることが認められよう。そしてまた、相関表の分布から見て、受動態の文でバランスが大きく崩れるものほど特殊である、と言うことができるであろう。

よく、agentful のものは agent を強調するものである、と言われることがある。しかしその説明は、部分を説明するものではあっても、全体の説明とはならない。そのことも上の考察から明らかであろう。

\*

最後に、そのほか 2 つほど顕著な事実をつけ加えて、稿を結ぶことにする。

その1つは、agent を導く前置詞の種類はほとんど 'by' だけに限られることである。136 例のうち、次にあげる 'through' の1例のほかはすべて 'by' である。

He was drawn into evangelism *through* his brother having launched a battery of prayer. (*The Times*) p. 197

この場合は agent が特殊な構造となっているが、これと同じ構造においても、次の例のように 'by' の使用が見られる。('by' の方が、より直接的なニュアンスをもつであろう)

The case was settled *by* the defendant paying the claim. (*The Times*) p. 197

ちなみに、現代英語では、次の例のように媒体を表わす場合にも 'by' の使用が目立つ。

The space could better be filled *by* material we spend our time discovering and writing. (*The Times*) p. 287

いわば、'with' の領域への 'by' の浸透、であるが、直截な表現を好む現代の傾向、と言うことができるかも知れない。

最後にもう1点であるが、これは、上の agent を導く 'by' と係わる事柄である。よく、'be interested', 'be surprised' などに *by-agent* がつけば、'interested', 'surprised' などの語が動作性を帯び、true passive を形成する、と説かれる。<sup>15)</sup> しかし、今回の調査資料中には、上の2語のほか、

amazed, frightened, pleased, disappointed, excited, offended

などについても、そのような用例は皆無であった。今日では現実には、ほとんど用いられなくなっているのではあるまいか（時に用例を見ることがないわけではない<sup>16)</sup> が）。そして、そのことから、これらの語の形容詞化の進行がうかがわれないであろうか。

\* \*

以上、調査結果の主なものをあげ、その事実にもとづいて、できるだけ客観的に考察を加えてみたわけである。受動態については今後に残された問題がまだまだ多い。

今日わが国では、言語理論によって、ことばの可能性がさかんに論じられている。しかし、冒頭で一言したように実際面では誤解や混乱なしとしないのである。

ことに、受動態の問題については、logic をそのまま actual usage と誤解することによるとみられる artificial English が目につく。

現実には、logic に様々な restriction が加わって actual usage に現象するのであり、受動態の場合には、その restriction がいかに幅広く、理論と実際の隔たりがいかに大きいか、ここに垣間見たとおりである。

主観的議論や抽象的議論によっては一向に解決し得ない面があることを忘れてはならないと思う。ことばの現実を謙虚に見つめる努力を怠ってはならないであろう。

むしろ理論研究は重んじられねばならない。だが、理論を重んずるあまり現実を無視することがあってはならないであろう。ささやかな調査を通じてそのことを強く感ずるのである。

(昭和49年11月4日改稿)

(昭和50年4月10日修正)

〔付記〕 本稿は、日本時事英語学会第16回年次大会（1974年10月、於慶応義塾大学）において口頭発表した原稿を全面的に加筆・修正したものである。

— 註 —

- 1) Svartvik, op. cit., p. 4.

なお同所の foot note で

‘It may be objected that this is a definition of, say, the ‘*be+Ved-construction*’ rather than the ‘*passive*.’ The answer to this criticism is that, firstly, the name is too clumsy and, secondly, little harm can be done by extending *pro tem* the domain of an established term to cover not only central constructions but also those on the periphery.’ と述べているが、われわれの観点とかなりの隔りがある。Svartvik においては、このように comprehensive に、すべての ‘*be+Ved-construction*’ がその分析対象に入るのである。

ちなみに、この定義のすぐ前に

‘In the primary analysis, all the following sentences will be considered ‘*passives*’:’ として、

*The village was (appeared, lay, looked, seemed) quite deserted.*

*He felt thoroughly disappointed.*

*The door remained locked.*

などの文もあげている。われわれの観点からは、これらは、本質的に *passive* と言えないものである。（その点について詳論することは、本稿の目的からはずれるのでこれ以上深く立ち入らない。）

- 2) Otto Jespersen, *The Philosophy of Grammar*, 1924, p. 168.

Otto Jespersen, *Essentials of English Grammar*, 1933, p. 121.

- 3) そこでは、使用した corpus については一切明らかにされていないのである。

なお、比較的新しいデータとして

M. M. Bryant, *Current American Usage*, 1962.

の統計があるが、そこでも corpus の範囲は明らかにされていない。しかも、どこまでを *passive* とするかさえ明らかにされないのでは、掘り所とすることはできないであろう。

- 4) いくつかその例をあげておく。〔イタリックは筆者、（ ）内の符号は原資料の略号、ページ数は Scheurwechs 前掲書の所在箇所〕。

Then there is the question of the users, whose interest does not *appear to have been* consulted. (L.) p. 273.

Recruits *were unlikely to be* drawn to any great extent from other classes of society. (B.) p. 213.

The study of logic in schools *tended to be* discouraged. (C.) p. 211.

When it *comes to be* delivered, the speech has all the appearance of spontaneity. (M.) p. 211.

Some reply *seemed to be* expected of me. (Mor.) p. 212.

These strikes *are certain to be* given careful consideration. (*The Times*) p. 156.

The Union *is bound to be* deeply moved whenever and wherever persons are subject to prosecution on account of their religious beliefs. (*The Times*) p. 266.

About a year afterwards the same subject *happened to be* mentioned. (M.) p. 212.

As a shunter the diesel-electric locomotive scores because it does not *require to be* withdrawn for re-coaling. (O.) p. 359.

- 5) E. A. Nida, *A Synopsis of English Syntax*, 1951 太田訳 pp. 53-54.

- 6) 次のような用例は、それほど稀な例であろうか。（イタリックはいずれも筆者）

This is the quality best described as character, which should not be *confused* with individual buildings. (B.) p. 374.

These were the links on which the championship was *decided*. (Par.) p. 58.

This jubilee is to be *celebrated* in several ways during the summer. (*The Times*) p. 351.

No small part of his energies had to be *devoted* to settling strikes. (M.) pp. 156, 189.

Nowadays Thanet is hardly to be *distinguished* from the surrounding Kentish countryside. (I.) p. 354.

7) Scheurwechs, op. cit., p. 446.

8) ほぼ同じ考え方に立つのが Zandvoort, Fries 等である.

cf. R. W. Zandvoort, *A Handbook of English Grammar*, (6th ed.), 1972, pp. 49-50.

C. C. Fries, *American English Grammar*, 1940, p. 189.

C. C. Fries, *The Structure of English*, 1957, p. 180.

なお, Svartvik がこれらに反して Jespersen, Curme などと結局同じ行き方をとっていることは言うまでもない.

9) cf. 福村虎治郎『英語態 (Voice) の研究』(1965), p. 175, Svartvik, op. cit., p. 161.

10) aspect の変更という restriction を伴うが, 次のような変形が可能であろう.

Sands and flats have linked the island to the mainland.

11) いわゆる statal passive についてであるが, 用例文内で明確にそれと判断がつきかねる場合がある. (Scheurwechs 資料では sentence の外 (そと) の context が与えられていないことによる) ごく少数にとどまるが, それらは当然残さざるを得なかった. ごく僅かではあるが, そのための誤差が出ることをお断りしておく.

12) Svartvik, op. cit., p. 129.

13) 語数の数え方の基準について一言しておく.

It is hoped by these thinkers that...

は, (Subj=1, Ag=2) とする.

また,

The room was inhabited most afternoons not by our children but by an assortment of nine to twelve year olds.

のような場合は, (Subj=2, Ag=2) と (Subj=2, Ag=8) とに2回数えることにする.

14) Svartvik, op. cit., p. 166.

15) たとえば, F. T. Wood, *English Prepositional Idioms*, 1967 に次の記述がある.

'When *interested* is a past participle, it is followed by *by*; when it is an adjective descriptive of an attitude or state of mind, it takes *in*.' (s. v. *interested*)

また, 小西友七教授は, be surprised, be interested について, p.p. に受動を示す動作性が強く残っている間は agent は必然的に by によって示されるが, 動作的機能が薄れてゆくにしがって, そして形容詞化が進むほど, 一般にその束縛から自由になり by 以外の前置詞をとる傾向が出てくる, つまり p.p. の動作性が稀薄になると, by で表わされた直接的な動作主を間接的な原因・理由などとしてとらえる可能性が生まれてくる, とされている. (『英語青年』1971年9月号)

16) たとえば, 小西友七教授『英語前置詞活用辞典』(1974) には, これらについてそれぞれ用例があげられている. ただ, 使用頻度はどうであろうか. 今日の慣用では, どちらかと言うと, むしろかなり特殊なものに属するのではなかろうか (もちろん, 個々に程度の差もないわけではないが).